



ハエの防除を徹底しましょう



ハエの発生は、苦情の原因や病原体の伝播、ストレスによる生産性の低下を招くので、的確な防除を実施し、衛生的な畜舎環境の保持に努めましょう。



【ハエの防除対策】

- ① **環境対策**：ハエの発生源となる環境を作らないこと
新鮮な畜ふん、堆肥舎周辺の堆肥、給水器の下の敷料、こぼれた餌等は速やかに処理し、畜舎内外をこまめに清掃しましょう。
特に堆肥化処理は適切な水分調整の上、好気性発酵処理をすること
なお、堆肥への石灰窒素（1～2%）の定期的な散布も有効です。
- ② **幼虫対策**：ハエは、ウジの段階で駆除するのが効果的なのでウジ専用の殺虫剤により、定期的（週に2～3回）に散布すること
また、昆虫成長制御剤（IGR剤）の定期散布（月1～2回）も効果的
- ③ **成虫対策**：通常は、誘引トラップ（ハエ取り紙、ハエ取りシート等）のような物理的な駆除や殺虫剤を使用する。
大発生した場合は、空中噴霧で数を減らし、残留噴霧法や毒餌法が効果的

【殺虫剤の種類】

種類	特徴
有機リン系	速効性、遅効性、残効性と剤により広い利用法 残留噴霧や毒餌に使用可能。
ピレスロイド系	除虫菊成分及び類似化合物の総称。速効性がありハエの大量発生時の空間噴霧に使用。残効性もあるが魚類への毒性が高い。
カーバメイト系	速効性だが、毒性はやや強い。
昆虫成長制御剤等（IGR）	ウジの成長（脱皮）を阻害する薬剤で、ウジの発生箇所 directly 散布し、ウジからのハエの発生を防ぎます。

【殺虫剤使用時の注意点】

- 殺虫剤が効かなくなったハエに対しては、異なった種類の薬剤を使用します。
（有機リン系、カーバメイト系薬剤で抵抗性があるものにはピレスロイド系薬剤を使用）
- 用法・用量は添付の説明書をよく読んで、正しく使いましょう。
- 殺虫剤が畜体や生産物にかからないように使用してください。殺虫剤が畜体にかかると「休薬期間」が必要になることがあります。
- 薬剤使用時は手袋、マスク、ゴーグルを着用して人体に影響のないようにしましょう。

